

広報

おおさかさやま

10

2010.OCTOBER No.500

大阪狭山市の情報誌

02 創刊500号記念特集／好きです、狭山池

10 TownTopics／はばたきフェスタなど
12 障害者医療証・ひとり親家庭医療証の更新など
20 シルバー情報のページ／脳の健康教室学習者募集など
22 けんこうGUIDE／予防接種など
24 情報のページ／差別身元調査お断り
34 市民活動の広場／協働～NEWS～



狭好 山き 池で す、

創刊 500 号
記念特集

「広報おおさかさやま」に見る狭山池



狭山池と広報誌

古くから、水を治め地を潤し、私たちの生活に安全と恵みを与える狭山池。そして、人が集い、つながる交流の場。まちのシンボルとして存在する狭山池。

昭和29年に「狭山町公報」として誕生し、今月で500号を数える「広報おおさかさやま」も、狭山池の変遷を見続けてきました。四季折々に見せる姿は幾度も誌面を彩り、その歴史をひもとぎ、そこに暮らす人々とのつながりを記してきました。

まだ昭和の時代、大改修を目前に控えたころ、広報誌の特集の中に「この池の自然環境、景観が破壊されることなく、開かれた市民の憩いの場として整備されることを願うばかりです。」という一文があります。そして大改修を終え、平成の世が22年を数える今も、その水辺に集う人たちは、思い思いに桜を愛で、歌い、踊り、歩き、走り、遠い昔に思いをはせ、変わらず狭山池を愛しています。

今回の特集では、創刊500号記念として、これまでの広報誌と狭山池、そしてそこにかかわってきた人々を振り返りながら、新たなスタートを切りたいと思います。

問い合わせ 人権広報グループ

狭山池の歴史は、知れば知るほど奥が深く面白いですね。



vol.311

311号では、「郷土の歴史を語る～大阪狭山市史～」と題して市史編さん事業について特集しました。

今年の春から、狭山池博物館のガイドボランティアとして来館された方に館内や展示物の案内をしています。大学で福祉関係の勉強をしながらボランティア活動をしていたこともあって、以前からボランティア活動に興味があったんです。平成の大改修で、きれいになった狭山池がとても好きで、大学生のころは、よく遊歩道を散歩したりしていました。

実際に、ガイドボランティアをやってみると、上手に説明するのは、なかなか難しいですね。自分が博物館について勉強して面白かった話を来館された方にお伝えして、喜んでもらえたときはすごく嬉しいです。

私の知り合いにも、まだ博物館に行っていない人が結構いて、もったいないと感じています。建物自体も素敵だし、迫力ある展示物もたくさんあります。ちょっととつづきにくい土木建築の歴史を少しでも分かりやすく魅力的に伝えて、もっとたくさんの人に訪れてもらえるようにしたいです。

発掘の時のタイムスリップしたような感動は、今も忘れられません。



vol.264

264号では、狭山池平成の大改修で、池底から竪穴式の住居跡が発掘されたことを伝えています。

平成元年～3年ごろ、学生時代に、狭山池や太満池の護岸にある須恵器の窯を発掘調査しました。登り窯の底部と側壁が遺構として残っていました。一般的に土器は博物館か、写真でしか見ることができませんが、発掘作業に携わったおかげで、自分の手で土器を発見し、掘り出すことができました。あの時の感動は、今も忘れられません。特に、器台と呼ばれる形の須恵器を発見したときには、千年以上前の時代にタイムスリップしたような神秘的な体験ができました。

調査後は、出土した須恵器を洗い、出土日時と場所などを記録しました。割れているものは、破片をパズルのよう接合して元の形に復元したりもしました。

今、柏原市内で中学校の教師をしています。近くの山には、たくさんの古墳が築かれており、高井田横穴古墳群として有名です。考古学の専門的な指導はできませんが、私の感動を生徒たちにも体験させてみたいですね。

「今熊一丁目」

門脇明日香さん

狭山池博物館でガイドボランティアをしている



「奈良県香芝市」

川口真之さん

平成の大改修時に発掘作業に携わっていた



狭山池をみんなで集まって集まって過ごせるリビングのような場所にしたいんです。



487号では、「未来を担う自分作り10年計画」の活発な意見交換の様子について伝えています。

中学生のころに表現倶楽部うどいに入って、舞台でのパフォーマンスや狭山池クリーンアクションなどへの参加を通して、様々な人と出会い、このまちがどんどん好きになりました。

あるとき、世代間の交流が少ないという話を大人の人から聞きました。最初は分からなかったのですが、地域が元気になるには、世代間をつないで多様な人が集まれる場が必要だと思うようになりました。そこで、「未来を担う自分作り10年計画」という座談会をきっかけに「さやま未来プランナー」が立ち上がりました。幸運なことに、今年の2月に、若者たちからまちづくりを進める拠点として、狭山池博物館の屋上にウッドデッキを作ることができました。

このウッドデッキでは、小学生を対象に科学実験をしたり、祖父母世代の人と一緒に歌を歌ったりして、徐々に世代間交流を進めています。将来は、もっと大勢の人が集まれるようにして、狭山池を歌や踊りで紹介するエンターテイメントをやってみたいと考えています。

狭山池まつりには、今も息子を連れて毎年遊びに行っています。



446号では、「わたしたちがつくるまち」と題して市民協働の取り組みについて特集しました。

狭山池まつりで挙式をするきっかけは、商工会に入っていた父の勧めによるものです。狭山池というのは、あまりにも身近な場所すぎて、最初は少し抵抗があったんです。狭山池まつりには、ずっと行っていましたし、高校生の頃には毎日ダンベルを持って父と二人でウォーキングをしていましたね。でも、今ではよかったと思っています。(知代さん)

式を挙げることは、身内にしか話していなかったんですけど、会場で大阪狭山市や富田林市の友だちに大勢出会ったのには驚きました。本当にたくさんの人に親しまれているまつりなんだと思いましたね。その後も広報誌に掲載されたり、ケーブルテレビ局の番組で放送されたりして、反響はとても大きかったです。僕たちが1組目で、後に続く人たちがいないのがとても残念です。最初のうちは照れくさかったですけど、大勢の知らない人たちに祝福されて式を挙げるのは素晴らしい経験でしたよ。(直也さん)

石井晃樹さん
〔半田三丁目〕

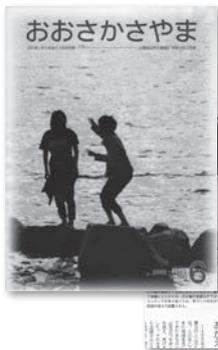
狭山池博物館にあるウッドデッキ作成を提案した



炭谷直哉さん・知代さん・空くん
〔富田林市〕

2006年の狭山池まつりで人前結婚式を挙げた





vol.400



狭山池の顔の二つ

400号では、「新たなる伝説のはじまりへ～狭山池まつりグラフィティ～」と題して、第一回目の狭山池まつりについて特集しています。毎年、数万人を超える参加者でにぎわう狭山池まつりについて、まつりの運営を支える狭山池まつり実行委員会の若林勝美さんと上田由佳里さんにお話を伺いました。

狭山池は、農業用のため池・治水ダムとして人々の生活に必要な存在です。一方で、平成の大改修が完成してからは、それまで以上に人々のふれあいの場として親しまれています。



狭山池まつり実行委員会

若林勝美さん(池尻中・左)

上田由佳里さん(東野中・右)

狭山池まつりは、市民が中心となつて運営していますが、様々な年代や職業、特に、市役所の人や学生など、普段はあまり接する機会のない人たちと一緒になつて取り組めるところが魅力です。当初は、たくさんの方が手探り状態で、慌ただしいことも多かったのですが、回を重ねるごとにスムーズに運営することができるようになつて、新しいこともどんどんできるようになりました。

まつりの当日までに、事前の準備で大変

狭山池まつりの魅力

狭山池まつりは、市民が中心となつて運営していますが、様々な年代や職業、特に、市役所の人や学生など、普段はあまり接する機会のない人たちと一緒になつて取り組めるところが魅力です。当初は、たくさんの方が手探り状態で、慌ただしいことも多かったのですが、回を重ねるごとにスムーズに運営することができるようになつて、新しいこともどんどんできるようになりました。



▲狭山池まつり

なこともありますが、運営側としてやって楽しいこともたくさんあります。とりわけ、実行委員会の活動を通じて、たくさんの友人ができたことがうれしいですね。

狭山池まつりの未来

狭山池まつりを支えてくれる人は少しずつ増えていますが、これからは、若い世代の人にもどんどん運営に関わってもらつて、狭山池まつりを盛り上げていって欲しいですね。

そのためには、参加するだけではなく、企画をしたり準備をしたりすることも楽しいよというところをもっと伝えて、運営側も楽しめる狭山池まつりをこれからも続けていければいいなと思います。



灌漑・治水の要所

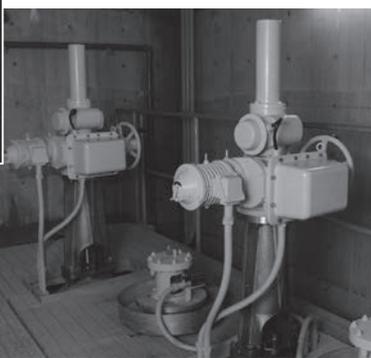
299号では、「狭山池近況報告」をテーマに改修の様子や、巨大遺構の保存などについて特集しています。平成の大改修や灌漑・治水の役割について、狭山池土地改良区の竹中成光さん、大阪府富田林土木事務所の名手和巳さん・澤埜直人さんにお話を伺いました。

vol.299



▶狭山池博物館に展示されている旧取水塔

近隣の水がめとして
狭山池は、築造から今に至るまで、農業用のため池として、流域の田畑を潤しています。狭山池土地改良区では、農業生産基盤の整備を図るため、大阪狭山市を含む近隣四市に農業用水の配布調整を行っています。現在、狭山池・副池・西除川にそれぞれ設置されている樋を管



▶現在の取水設備

狭山池土地改良区 竹中成光事務局長



理して流水量の調整を行っていますが、これらは平成の大改修で整備されたものです。バルブの開閉も手動から電動になり、その点はずいぶんと楽になりましたね。
狭山池では、田畑に直接水を送るのではなく、いったん周囲の池に移して、必要な地域に供給しています。
最近、ゲリラ豪雨への対応に頭を痛めています。灌漑用水の供給中だと、供給過剰になり、田畑に浸水被害を招きかねません。狭山池で降っていないにもかかわらず上流で豪雨に見舞われると影響がありますから気を遣いますね。

▼貯水量を調節する 越流堤

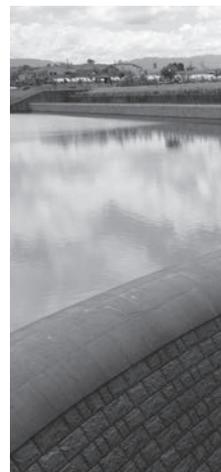
私たちの役割

狭山池の管理事務所では、流域の雨量・ダム流入量や流出量・貯水位などのデータを計測するテレメータシステム、越流堤や河川の流入の状態を監視することができるとTVカメラなどを用いて狭山池を管理しています。大雨洪水警報が出たり、上流からの流入量が一定のラインを超えたり、震度4以上の地震が起きた場合、職員が管理事務所に急行し、安全が保たれているかどうか監視します。

安心と潤い

昭和57年の8月に、甚大な洪水被害が発生したことが大きなきっかけとなって、流域の抜本的な治水対策として、14年間に及ぶ大改修を行いました。

改修工事では、ため池としての機能を継続したまま、灌漑期



にも工事を続ける方法や、わが国最古のため池として池の内外に眠る貴重な文化財の発掘・保存方法などの課題を克服してきました。100年に1回の大雨を想定して、従来よりも平均して1.1メートル堤を高くし、池の底を3メートル掘ることで、今では、新たに100万トンの容量を加えた最大280万トンもの水を貯めることができるようになっていきます。



富田林土木事務所
河川砂防グループ
名手和巳 砂防班長 (右)
澤埜直人 技師 (左)



vol.385



385号では、「受け継がれる狭山池の文化」と題した特集でオープン目前の狭山池博物館を紹介しています。

狭山池博物館 工楽館長に聞く

市民との協働運営によって新たな道を歩み始めた

開館から今日までを振り返ってみていかがですか？

順調に來ていると思います。狭山池の改修工事に伴う発掘調査で出土したさまざまな土木遺産を展示・公開し、地元の人を始めとした皆さんに狭山池を理解してもらおうというのが大きな目的でしたからね。本年3月末には開館以來初めて年間入館者10万人を達成しました。

もう一つ、狭山池の歴史を振り返るだけではなく、灌漑用のため池として、1400年前につくられ、現在に至るまでずっと使われ続けている、全国でもまれに見る珍しい池ですから、農業土木・灌漑施設に関する情報発信拠点でもありたいと考えていました。これはまだ十分に機能しているとはいえませんが、開館して10年たち、この博物館がそういう位置づけであると

いうことが徐々に認知されてきています。どこかで河川の調査をやる、あるいはため池の調査をやったときには、狭山池ではどう、ほかの遺跡ではどうだという情報を提供して欲しいという問い合わせが研究者や新聞社などからあります。狭山池博物館への期待感というのも高まってきていますから、そういうことに十分に応えて行きたいと考えてはいるんですが。

着任当時、広報誌のインタビュウに対して、すでに「地元である大阪狭山市の皆さんには、狭山池博物館や狭山池の利用方法についてアイデアをいただきたい、運営にかかわっていただいたりして、皆さんと一緒にこの博物館を育てていきたいと考えています」とこたえていらっしやいますね。(2001年4月、386号)

その点に関しては、昨年から府・市に加えて狭山池まつり実行委員会による協働運営がスタートして、大変よかったと思っています。地元の人たちに親しんでもらおうと、子どもの絵画展や書初め展、いろはかるた大会などを開催してきましたが、学芸の専門家だけですと、考えが固定的になってしまいます。市民の皆さんが参画して、利用の仕方などについても意見を出し合い、それまで視野にいれていなかった昆虫展や多彩なコンサートなども企画され、子どもさんも来てくれるようになりましたし、入場者も増えました。

今後の展望について

博物館は狭山池と一体です。農業用灌漑施設としての狭山池には、飛鳥時代の昔から大変大きな役割がずっとあって、下流域へ水を送るための色々な工夫が随所になされてきたわけです。さらに治水、洪水対策としても大きな役割も担っています。お米を食べている我々日本人、アジア諸国でいうと韓国や中国もそうですが、これらの国々にとって農業水利施設というのは、大変重要な意味を昔から持ち続けています。これ



狭山池博物館・郷土資料館館長
工楽善通さん

明治大学大学院修了。奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長を経て現職。著作に「水田の考古学」「古代の水田跡とムラ」ほか

を将来に向けて守り継いでいく必要があります。そういう意味で、できれば先の各国が互いに協力して歩調を合わせて世界遺産に登録し、農業灌漑用の文化財として将来にわたって、いいかたちで残していくことが、大変重要なことと思っています。そのためには、それにふさわしい環境づくりを行政も市民も一体となって狭山池を中心に取り組んでいかなければなりませんね。

狭山池シンポジウムについて

以前開催していた狭山池フォーラムから少し時間が経過してしまっただので、今回が新たな一歩ということになります。そういった意味で「狭山池の誕生をさぐる」と題して、その歴史的な背景を基礎知識として知ってもらおうと考えています。

当日は私がパネルディスカッションのコーディネーターを務めます。多くの人に関心を持ってもらえるような進行をしたいと思っています。入門編としても格好のもので、そう難しいものと思わずに来ていただければと思います。

狭山池の誕生をさぐる

大阪狭山市のシンボルである狭山池は、『古事記』『日本書紀』に築造記事のある日本最古のダム式のため池です。灌漑用のため池として7世紀に誕生し、現在に至るまで南河内の豊かな米作りを支え、村々の発展に大きな役割を果たしてきました。狭山池は、築造技術に朝鮮半島から伝わった土木技術がとり入れられるなど、豊かな国際性を持つことも大きな特色です。今回のシンポジウムでは、南河内の開発に大きな役割を果たした狭山池の築造の意義を、朝鮮半島から伝わった技術とともに考えます。

とき | 16日(土)午後0時30分開会

ところ | SAYAKA ホール・大ホール

●基調講演

午後0時40分～1時30分

「狭山池築造の歴史的背景」 榮原永遠男さん / 市史編さん委員会委員長・大阪市立大学名誉教授

●パネリスト報告

午後1時40分～2時30分

「金堤、碧骨堤の歴史と文化」 鄭允淑さん / 金堤市碧骨堤農耕文化博物館学芸研究士

午後2時30分～3時

「文字資料からみた韓国古代の築堤」 田中俊明さん / 滋賀県立大学教授

午後3時～3時30分

「東アジアの中の狭山池」 小山田宏一さん / 狭山池博物館・郷土資料館学芸員

●パネルディスカッション

午後3時15分～午後4時30分

コーディネーター 工業善通さん / 狭山池博物館・郷土資料館館長

定員 800人 (先着順)

問い合わせ 社会教育・スポーツ振興グループ

狭山池と私たち

今回、狭山池について様々な視点から皆さんのお話を聞いて感じたことは、人それぞれ思いは異なっているけれども、狭山池を愛する気持ちはみな同じだということでした。

1400年の歴史を持つ狭山池は、灌漑用のため池として人々が生きる糧を得るために無くてはならない存在です。また、日本最古の人工ため池である狭山池は、築造されて以来ずっと人々に出会いとふれあいを提供してきた場ともいえます。

平成の大改修で生まれ変わった狭山池は、それまで以上に人々に愛される存在になりました。その代表例が「狭山池まつり」です。市民が中心となっており、行っている狭山池まつりは、毎年数万人を超える参加者が、狭山池を舞台に様々な交流を育んでいます。

今、狭山池は、韓国で最古の貯水池である碧骨堤と共に世界遺産登録をめざすという新たなステージに立っています。世界遺産登録をめざすことは、世界の人々との出会いや交流を図るきっかけとなり、新たな交流の形となるのではないのでしょうか。

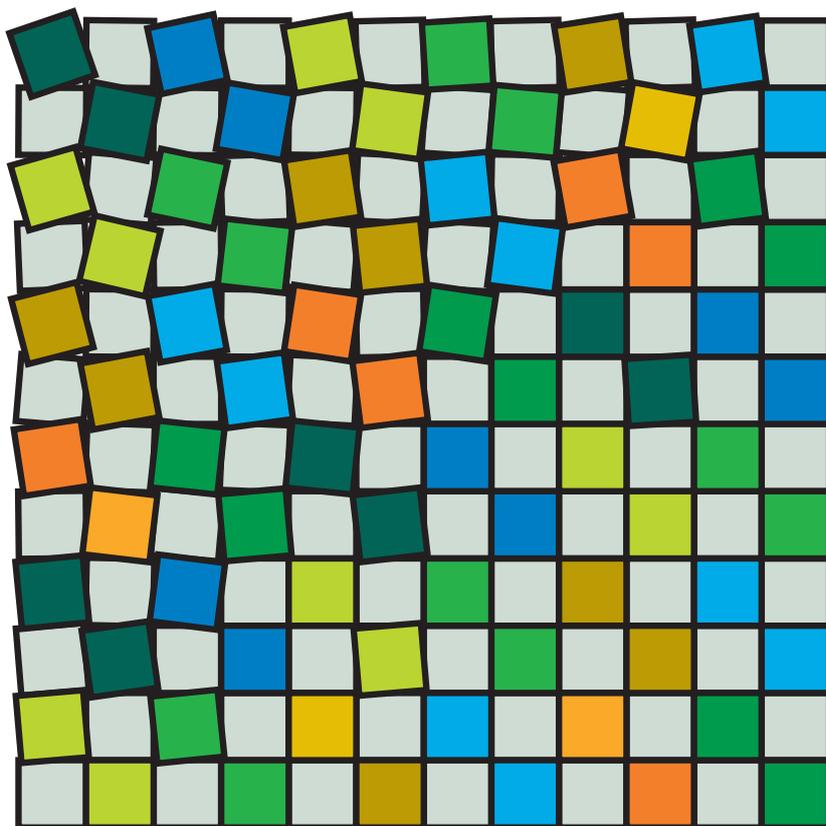
日本の狭山池が、世界の狭山池になる日。その素晴らしい日を広報誌でお伝えできることを夢見て、今後皆さんに親しまれる広報誌をめざします。

平成22年度秋季企画展

古代西除川沿いの 集落景観

2010年10月9日(土) ▶ 12月5日(日)

主催 | 大阪府立狭山池博物館 / 大阪狭山市立郷土資料館
後援 | 大阪府教育委員会 / 南海電気鉄道株式会社 / 大阪府都市開発株式会社



歴史講演会 (先着順・定員126名)

時間=午後2時から午後4時(午後1時から受付) 会場=大阪府立狭山池博物館ホール

入館無料

第1回 10月23日(土) 「古代農耕と動物祭祀」

講師=工楽 善通 (大阪府立狭山池博物館館長)

第3回 11月6日(土) 「古代の治水と狭山池」

講師=小山田 宏一 (大阪府立狭山池博物館学芸員)

第2回 10月30日(土) 「律令社会の考古学」

講師=坂井 秀弥 (奈良大学教授)

第4回 11月13日(土) 「古代の開発とミヤケ」

講師=館野 和己 (奈良女子大学文学部教授)

◆ 本館学芸員による展示解説 特別展示室・毎週土曜日午前11時から30分程度



治水灌漑の土木遺産を継承する 大阪府立狭山池博物館

OSAKA PREF. SAYAMAIKE MUSEUM

◎開館時間=午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで) ◎休館日=毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) ◎入館料=無料
◎所在地=〒589-0007 大阪府大阪狭山市池原中2丁目 ◎電話番号=072-367-8891 ◎FAX番号=072-367-8892 ◎ホームページ=http://www.sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/
◎交通=南海電鉄なんば駅より高野線にて大阪狭山市駅下車、西へ約700m。
博物館には専用駐車場(大型バス・車いす使用者用は除く)がありませんので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。大型バスでご来館の場合は、事前にご連絡ください。
◎狭山池博物館は、大阪府、大阪狭山市、狭山池まつり実行委員会が協働して運営しています。